

単元名 歴史的分野 産業の発達と幕府政治の動き

1 学年

- ④ ①
- 1 1
- 2 ②
- 3 3
- 4
- 5
- 6

背景

中学校の歴史学習においては中央史に力点が置かれ、歴史的事象を身近に感じることが難しい。そこで、私たちの住む地域にも歴史があり、地域の歴史が中央史とつながっていることを実感させることによって、より歴史を身近に、切実感をもって感じさせることができると考えた。

本単元は、産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを学習する。また、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを学習する単元でもある。とくに、「産業や交通の発達」や「各地方の生活文化」については、身近な地域の事例を取り上げるよう配慮し、現在との結びつきに気づくことができるようにすることが、学習指導要領においても示されているところである。

そこで、「交通網の整備と都市の繁栄」においては、「江戸」の町づくりのために「利根川東遷事業」が進められた理由を探る。そして、東北諸藩からの江戸へ物資を運ぶための水運ルートが整備されたことを理解する中で、千葉県内では銚子や佐原などの諸都市が発展していったことをつかませたい。

また、この東遷事業が、印旛沼に「洪水との戦い」という長い試練を与えることになったことを理解させ、治水や水運、新田開発のための掘削工事が3度繰り返されたことをつかませ、いずれも失敗に終わったことを「幕府の政治改革」の結果とともに考察させたい。

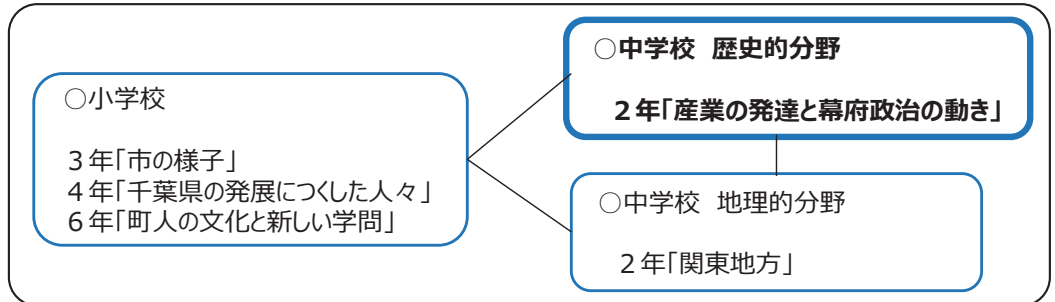
ねらい

- 利根川東遷事業を通して、治水、水運が百万人都市である江戸のくらしや経済を支えたことに気づかせ、その中で銚子や佐原などの県内の諸都市が発達したことをつかませる。
- 東遷事業が、印旛沼の歴史に大きな影響を与えたことを理解し、その後の掘削事業に携わる先人の思いを知ることを通して、郷土を愛する気持ちを高める。
- 印旛沼の歴史を取り上げながら中央史を学ぶことで、歴史的事象を身近に、切実感をもってとらえさせる。

2 教科・領域

- 国語 生活
- ③ 家庭
- 算数 図工
- 数 道徳
- 理科 総合

系統



3 テーマ

- 多様性
- 関連性
- 空間的広がり
- 時間的変化

資料・準備・関連機関等

資料

- ・いんば沼のはなし（印旛沼環境基金、2019）
- ・いんば沼～むかし、いま、そしてあした～（印旛沼環境基金、2009）
- ・印旛沼ってどんな沼～私たちに何ができるか、考えよう～（千葉県、2006）
- ・開拓維新記 印旛沼の水土に挑む開拓精神（関東農政局印旛沼二期農業水利事業所）
- ・印旛沼環境基金HP（<https://www.i-kouiki.jp/imbanuma/>）
- ・利根川の歴史（国土交通省HPより）

https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen/jiten/nihon_kawa/0316_to_negawa/0316_tonegawa_01.html

4 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力
- 判断力
- 表現力
- 主態度

指導計画

時配	学習内容
1	農業や諸産業の発達
2(本時)	交通路の整備と都市の繁栄
3	幕府政治の安定と元禄文化
4	享保の改革と社会の変化
5	田沼の政治と寛政の改革
6	新しい学問と化政文化
7	外国船の出現と天保の改革
8(本時)	幕府の政治改革と印旛沼

5 指導時間

- ・準備 1時間
- ・授業時間 2時間

本時でねらう見方や考え方

利根川東遷事業の目的を探ることを通して、治水・水運整備が江戸時代の経済的基盤となったことを理解し、各地に交通路が整備され、三都の繁栄とともに印旛沼周辺では、佐倉・成田・佐原・銚子などが発展したことを理解する。

本時の指導 2 / 8

- (1) 目標 ○利根川東遷事業の目的について、様々な面から考えることができる。(思考・判断・表現)
 ○交通の発達や三都をはじめとする都市が発展したことを意欲的に調べようとする。
 (主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	資料
見出す	5	◎ 2枚の地図を比較して、違いを見つけよう。 ・本時の学習課題をつかむ。	・利根川東遷前と現在の利根川の流れの地図を提示し、東京湾に流れていた利根川が太平洋へ注ぎ込むことになったことを読み取る。	利根川流域図(東遷前後)
		利根川の流を変えたことで、どのような変化が生じたのだろうか。		
調べる	10	◎ なぜ利根川の流を変えなくてはならなかったのか予想を立て、検証する。 ①江戸を水害をから守るため。 ②水田を開発するため。 ③物資を運ぶため。 ④江戸を敵から守るため。	・江戸幕府が置かれるまで関東という土地がどのような地域だったのかを補足しながら、利根川東遷事業の目的を理解させる。なお、その目的は諸説あることも押さえておく。 ・とくに、交通・運輸体系の確立において、利根川を中心とした内陸船運も大きな役割担ったことをおさえる。 ☆利根川東遷の目的について、多面的に考えようとしている。(思判表)	利根川水運の地図
	10	◎ 利根川東遷事業によって生まれた変化について調べる。 ・五街道や脇街道の整備 ・海上交通の整備 ・菱垣廻船や樽廻船 ・西廻り航路と東廻り航路 ・交通網の発達により三都が大きく発展した。	・諸産業の発達と交通網の整備によって、港町、宿場町、門前町などの諸都市が発展したこともおさえる。 ・幕府の置かれた江戸、商業都市大阪、都である京都が大きく発展したことを理解する。	資料集 ・五街道 ・海上交通網
深める	20	◎ 印旛沼周辺では、どのような都市が発展したのだろうか。 ・グループ内で佐倉・成田・佐原・銚子の4都市について分担し、資料を読んでまとめる。 ・調べたことをグループ内で発表し、北総4都市の特色を整理する。 ◎ 利根川の流が変わって、人々の暮らしに悪影響はなかったのだろうか。	・城下町の佐倉、成田山の門前町成田、利根川水運の河岸、香取神宮の参道の起点の佐原、漁港、港町の銚子というそれぞれの特徴ある都市が栄えたことを調べる。 ☆北総4都市の発展について意欲的に調べ情報をまとめようとしている。(主学態)	北総4都市についての資料(各市HPなど)
まとめあげる	5	・本時の学習をまとめる。	・利根川東遷事業により、印旛沼は利根川の氾濫に起因する洪水(外水)や印旛沼に流入する河川の増水による洪水(内水)の両方に苦しめられることになることを理解する。	
利根川東遷事業により江戸へ物資を運ぶ水運ルートが整えられ、県内でも銚子・佐原などの諸都市が発展した。しかし、利根川の流が変わったことで、印旛沼および周辺では、多大な洪水被害を被ることになった。				

(3) 板書計画

⑧ 利根川の流を変えたことで、どのような変化が生じたのだろうか。

a

利根川東遷前の地図

東遷後の利根川の地図

＜利根川東遷事業の目的＞
 ①江戸を水害をから守るため。
 ②水田を開発するため。
 ③物資を運ぶため。 ⇒ 東北諸藩の物資を大量に短期間で江戸に運ぶことができるようになる。
 ④江戸を敵から守るため。

⑨

＜交通路の整備と三都の繁栄＞
 ・五街道の整備
 (東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中)
 ・海上交通の整備
 ・菱垣廻船と樽廻船
 ・西廻り航路と東廻り航路(河村瑞賢)
 ⇒ 諸都市の発展へ
 ・港町、宿場町、門前町などの都市が発展
 ・三都(江戸・大阪・京都)の発展
 ・千葉では…佐倉・成田・佐原・銚子など

利根川東遷事業により江戸へ物資を運ぶ水運ルートが整えられ、県内でも銚子・佐原などの諸都市が発展した。しかし、利根川の流が変わったことで、印旛沼および周辺では、多大な洪水被害を被ることになった。

本時でねらう見方や考え方

利根川東遷により洪水被害に悩まされることになった印旛沼では、どのようにして洪水を克服しようとしたのか、江戸時代における印旛沼開発工事の歴史を調べることを通して、地域の発展のために先人が尽力した結果、現在の印旛沼地域の発展があることを理解する。

本時の指導 8/8

- (1) 目標
- 江戸時代における印旛沼干拓工事について調べることを通して、印旛沼発展のために尽くしてきた先人たちの思いを知ろうと意欲的に調べている。(主体的に学習に取り組む態度)
 - 干拓工事の失敗の要因を、地理的・歴史的・経済的に様々な観点からとらえようとしている。(思考・判断・表現)

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	資料
見出す	10	◎印旛沼周辺地図をもとに、印旛沼が江戸時代にどのように利用されていたのか、自分の考えを述べてみよう。 ・飲み水 ・物資を運ぶ ・農業用水 ◎年表の江戸時代に着目し、気が付いたことを発表しよう。 ・洪水がたくさん起こっている。 ・掘削工事が何度も行われている。 ・どの工事も失敗している。 ・本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">利根川東遷以降、人々は印旛沼の洪水とどのように戦ってきたのだろうか。</div>	・これまでの学習を振り返り、利根川東遷事業により、水運が整えられたことを理解する。 ・しかし、東遷事業は、印旛沼周辺の地域に洪水による甚大な被害にもたらすようになったことをつかませる。 ・印旛沼の歴史は、洪水との戦いの歴史であることをとらえさせる。	東遷後の印旛沼周辺地図 印旛沼年表
調べる	15	・江戸時代に行われた印旛沼の干拓工事について、グループ内で分担して調査する。 ①享保期の工事 ・名主 染谷源右衛門の開発 ②天明期の工事 ・老中 田沼意次の開発 ③天保期の工事 ・老中 水野忠邦の開発	☆当時の人々がどのような願いをもって印旛沼の干拓工事にとりこんでいたのかをとらえようと意欲的に調べている。(主学態) ・印旛沼の干拓工事が田沼の政治や天保の改革といった中央史との関連があることに着目させる。	資料 いんば沼～むかし、いま、そしてあした～ いんば沼のはなし
深める	15	・各グループ内で調べたことを発表し合い、情報を自分の言葉でまとめる。 ◎その後、印旛沼の洪水はどのようにしてなくすことができたのだろうか。	☆なぜ印旛沼の干拓工事が失敗に終わったのか、その要因を地理的・歴史的・経済的要因といった様々な観点から考えようとしている。(思判表) ・江戸時代の3度の挫折を乗り越えて続けられた印旛沼開発は、長い時をかけ昭和によりやく完成したことを理解させる。	
まとめあげる	10	・本時の学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">印旛沼は江戸時代に3度干拓工事が進められたが、いずれも失敗に終わった。しかし、明治・大正・昭和と続けられた「印旛沼開発事業」は1969年に完成し、洪水被害は大きく減り、水そのものを利用することとなった。</div>		

(3) 板書計画

◎ 利根川東遷以降、人々は印旛沼の洪水とどのように戦ってきたのだろうか。

利根川東遷後の
印旛沼周辺地図

印旛沼の
歴史年表

○印旛沼開発の目的

- ・洪水対策
- ・新田開発

①享保期の工事 ・名主 染谷源右衛門の開発

②天明期の工事 ・老中 田沼意次の開発

③天保期の工事 ・老中 水野忠邦の開発

⇒ いずれも失敗に終わる。

◎ 印旛沼は江戸時代に3度干拓工事が進められたが、いずれも失敗に終わった。しかし、明治・大正・昭和と続けられた「印旛沼開発事業」は1969年に完成し、洪水被害は大きく減り、沼の水そのものを活用することとなった。

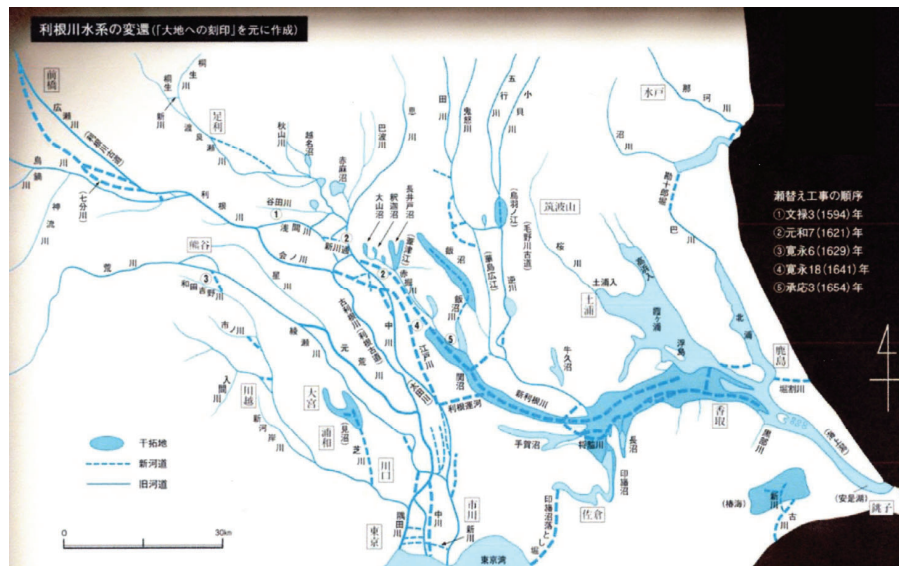
資料等

(1) 資料及び使い方

① 東遷前の利根川の流れ (「開拓維新記 印旛沼の水土に挑む開拓精神」より)



② 東遷後の利根川の流れ (「開拓維新記 印旛沼の水土に挑む開拓精神」より)



○利根川水運の地図 (「利根川の歴史(国土交通省HP)」より)



(2) 留意点

- ① 小学校での地域史の取り扱いについて、学習内容を事前に把握し、重複がないように注意する。
- ② 中央史と地域の歴史とが関連し合っていることを感じる事が重要なので、どちらかに偏った授業展開にならないよう気をつける。
- ③ 時間的に余裕があれば、調べ学習の時間をしっかりと確保し、2時間展開を行うことも考えられる。その際、江戸時代における印旛沼干拓事業についてだけでなく、明治以降の印旛沼開発事業についても分担して調査させることも有効であろう。